

審査意見への対応を記載した書類(6月)

(目次)

農学部 生物生産学科

1. <農場の計画が不明瞭>

設置の趣旨等を記載した書類において、農場は借地を用意し温室等を設置すると記載されているが、農場に関する計画が不明確で、運営する技術職員や専任スタッフの体制の具体的な説明がなく、農場として備えるべき施設等が十分であるかどうかの説明もされていないため、これらについて明確かつ具体的に説明すること。(是正意見)

2. <農場の借用期間が不明瞭>

是正事項農場を借地で用意する計画が示されているが、将来にわたり安定的に農場を利用できる根拠が不明なため、資料等を活用して明示すること。(是正意見)

3. <実習体制が不明瞭>

授業科目の概要の資料において、「調理学実習」の科目について、調理を行うにふさわしい実習場所が確保されているか不明なため、実習体制を具体的に説明すること。(改善意見)

4. <入学者選抜方法が不明瞭>

設置の趣旨等を記載した書類において、農学部のアドミッション・ポリシーとして修得しておくべき知識・技能で「高等学校で学ぶ語学(英語及び国語)に関する基礎学力を有すること」としているが、大学入試センター試験を利用する入学試験区分の中期又は後期では、学生の選択によっては英語又は国語を選択しなくても入学できるようになっているため、アドミッション・ポリシーとの整合性を踏まえ適切に改めること。(改善意見)

5. <成績評価区分が不明瞭>

設置の趣旨等を記載した書類、GP 及び成績評価の図表において、GP が 4 点～0 点までの 5 区分に対し、成績評価の区分は「優・良・可・不可」の 4 区分で記載されているため、学生にもわかるよう具体的に説明すること。(改善意見)

(是正意見)農学部 生物生産学科

1. <農場の計画が不明瞭>

設置の趣旨等を記載した書類において、農場は借地を用意し温室等を設置すると記載されているが、農場に関する計画が不明確で、運営する技術職員や専任スタッフの体制の具体的な説明がなく、農場として備えるべき施設等が十分であるかどうかの説明もされていないため、これらについて明確かつ具体的に説明すること。

(対応)

設置の趣旨及び必要性に関する書類に、7-(3)附属農場の整備計画等として、附属農場に関する設備計画、管理運営体制や実習計画について記述を修正し、表を追加する。また、それに関連して校地校舎図面等の書類 P4 に農場予定地を追記する。

(新旧対照表)

新	旧
<p>(3)附属農場の整備計画等</p> <p>実習に使用する農場は農学部校舎の北側隣接農地を4人の地権者から20年間の定期借地権契約により9,585 m²を確保する予定である。資料5に各地権者との契約書を添付する。近隣の農地を含め、地権者と継続的に購入に向けて交渉を続け、実習に安定的に利用できる農地の確保に努める。</p> <p>農地については、下表のように約2,100 m²を田、約2,500 m²を畑、約1,000 m²を桑畑、約4,000 m²をグリーンハウス用地とする。グリーンハウス内には温度・湿度センサー等を取りつけ、監視・自動制御用PCを設置する。その他、農具を収容する建物等を設置する計画である。農場は、2年次の作物園芸学実習Ⅰ、Ⅱおよび3年次の作物園芸学特別実験・実習、ならびに卒業研究で使用する。露地栽培としてイネ、ジャガイモ、落花生、ナス、ダイコン、ハクサイなど、施設栽培では苗の生産、キュウリ、トマト、イチゴなどの栽培を計画してい</p>	<p>農地は、農学部校舎の北側隣接農地(借地)を用意する予定である。農地の面積は、9,585 m²を確保しておりその一角には、ICTで温度・湿度等の自動制御装置を備えた複数のグリーンハウスや農具を収容する建物等を設置する計画である。</p>

る。さらに、収穫後の作物を農学部棟(10号館)に搬入する際には、1階農産加工処理室にて洗浄してから、各実験室・研究室に移送する。

農場の管理は、作物園芸システム学コースのコース長を管理責任者とし、責任者の指揮のもと作物園芸システム学実習・実験の担当教員および施設管理業務担当の技術職員(2人)を配置し、長期休暇中の維持管理を含め、授業の円滑な実施ができる体制とする。作物学担当の教員が田・畑、園芸学担当の教員がグリーンハウス内の管理を担当する。そして桑畑については、生命科学コースのコース長を管理者とし、蚕を研究対象としている教員が担当者とする。農場管理担当の技術職員は、責任者・担当者と連携をとりながら、農場の資材・器材等の維持管理を行う。

名称	面積(m ²)	主な設備
田	2,105	
畑	2,476	
桑畑	1,000	
グリーンハウス等用地	4,004	グリーンハウス (間口9m×奥行き21m×6棟) 資材倉庫 環境監視・制御用PC、暖房機、水耕栽培用設備、温・湿度センサー、ミスト・CO2発生装置等
合計	9,585	

(是正意見)農学部 生物生産学科

2. <農場の借用期間が不明瞭>

農場を借地で用意する計画が示されているが、将来にわたり安定的に農場を利用できる根拠が不明なため、資料等を活用して明示すること。

(対応)

地主の意向もあり20年間の定期借地権により契約し、将来にわたり安定的に利用できることを確認している。設置の趣旨及び必要性に関する書類に7-(3)附属農場の整備計画等として是正意見1と合わせて次の文章を追記し、資料5として4人の地権者との契約書を添付する。

P39

実習に使用する農場は農学部校舎の北側隣接農地を4人の地権者から20年間の定期借地権契約により9,585 m²を確保する予定である。資料5に各地権者との契約書を添付する。近隣の農地を含め、地権者と継続的に購入に向けて交渉を続け、実習に安定的に利用できる農地の確保に努める。

(改善意見)農学部 生物生産学科

3. <実習体制が不明瞭>

授業科目の概要の資料において、「調理学実習」の科目について、調理を行うにふさわしい実習場所が確保されているか不明なため、実習体制を具体的に説明すること。

(対応)

調理学実習については、当初、農学部棟(10号館)三階の実験室を使用することを想定していたが、隣接する本学6号館1階に整備している健康福祉学部と共用の調理実習室を利用することに変更した。設置の趣旨及び必要性に関する書類にその旨に関する記述を追記し、実習体制についての記述も追記した。

P38: 9行

1年次に行う調理学実習は、既設の6号館調理実習室(最大56人収容可能)を使用する。本実習室は健康福祉学部健康栄養学科との共用であり、1週30時限(6時限×5日)中12時限は、健康栄養学科が使用する予定である。実習室の利用時間には余裕があるため、仮に履修希望学生が多くなったとしても、2クラスに分けての実施が可能である。実習室には、授業に必要な食器や調理器具類、ガスコンロ付きの調理台、換気システム等の設備は既に備えられている。そして、実習室の管理は、健康福祉学部健康栄養学科長を管理責任者とし、責任者の指揮のもと農学部の担当教員ならびに補助教員・助手(2人)を配置し、授業の円滑な実施ができる体制とする。

(改善意見)農学部 生物生産学科

4. <入学者選抜方法が不明瞭>
 設置の趣旨等を記載した書類において、農学部のアドミッション・ポリシーとして修得しておくべき知識・技能で「高等学校で学ぶ語学(英語及び国語)に関する基礎学力を有すること」としているが、大学入試センター試験を利用する入学試験区分の中期又は後期では、学生の選択によっては英語又は国語を選択しなくても入学できるようになっているため、アドミッション・ポリシーとの整合性を踏まえ適切に改めること。

(対応)

アドミッション・ポリシーとの整合性を踏まえ、大学入試センター試験の成績に加えて、調査書に記載の学習状況を評価し、試験科目の不足を補うよう改める。

(新旧対照表)「設置の趣旨を記載した書類」(49 ページ)

新			旧		
中期	3	○から2科目 ○数学(数学 I、数学 IA、数学 II、数学 II B) ○英語または国語 ○理科(物理、化学、生物、地学から1科目または物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目)	中期	3	○から2科目 ○数学(数学 I、数学 IA) ○英語または国語 ○理科(物理、化学、生物、地学から1科目または物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目)
後期	若干名		後期	若干名	

本試験では、大学入試センター試験の成績 200 点×2科目+調査書の評定値 100 点で計算し、500 点で評価する。大学入試センター試験は、高得点2科目を自動的に採用する。調査書については、高得点科目として採用されなかった2教科の評定平均値を、それぞれ 50 点満点(5段階評価×10)に換算する。例えば数学 I と英語が高得点科目であった場合、国語と理科の評定平均値を採用する。

(改善意見)農学部 生物生産学科

5. <成績評価区分が不明瞭>

設置の趣旨等を記載した書類、GP 及び成績評価の図表において、GP が 4 点~0 点までの 5 区分に対し、成績評価の区分は「優・良・可・不可」の 4 区分で記載されているため、学生にもわかるよう具体的に説明すること。

(対応)

成績評価区分と GP 区分の違いに触れ、学生が Web で自分の修得 GP 科目数についても確認できる旨の記述を追加する。

(新旧対照表)

設置の趣旨及び必要性等

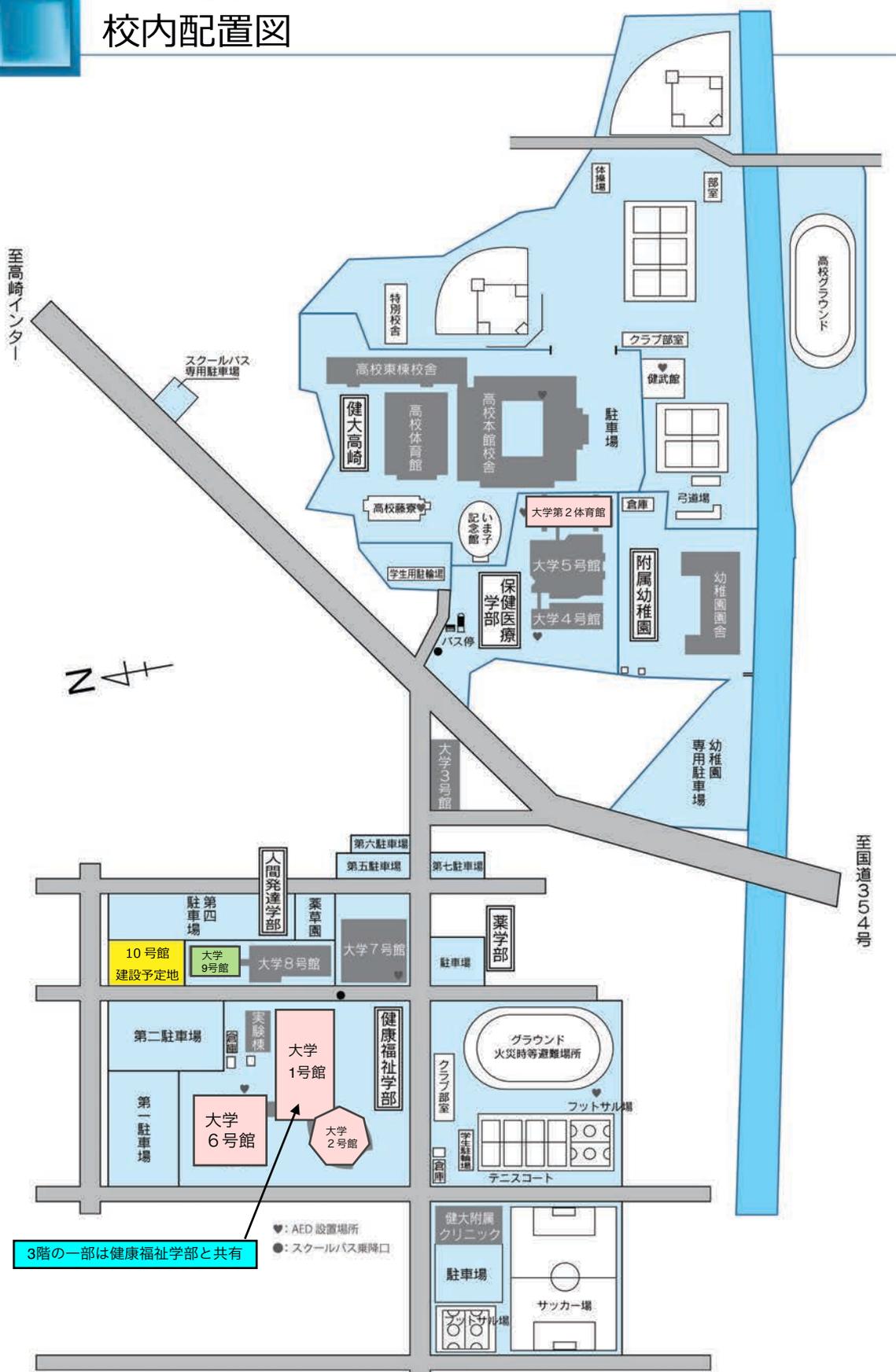
新				旧			
30 ページ				32 ページ			
1. 成績評価				1. 成績評価			
学期毎に授業科目の成績を4段階で評価し、それぞれに対し、以下の GP を与える。				学期毎に授業科目の成績を4段階で評価し、それぞれに対し、以下の GP を与える。			
GP および成績評価				GP および成績評価			
成績評価	評価点	単位付与	GP (点)	成績評価	評価点	単位付与	GP (点)
優	90-100	合格	4	優	90-100	合格	4
	80-89	合格	3	優	80-89	合格	3
良	70-79	合格	2	良	70-79	合格	2
可	60-69	合格	1	可	60-69	合格	1
不可	59 点以下	不合格	0	不可	59 点以下	不合格	0
評価対象外			0	評価対象外			0
<p>なお、本学では平成 13 年の開学時より、成績評価を「優・良・可・不可」の4区分で実施している。これは学生の就職活動等を鑑み、「優」よりも上の評価区分を設定する必要はないと考えている。</p>				<p>計算方法 学期 GPA=(各科目の修得単位数×GP)当該学期の合計／当該学期の履修登録科目の単位数の合計</p>			

<p>その後、留学や外資系企業等への就職における成績評価法のグローバル化に対応するため、GP 制度を導入し、「優」を4点ならびに3点に分けて設定することになった。本学の成績管理システムでは単位修得状況と合わせて、各 GP の修得科目数を確認可能であり、科目毎の GP は学生の問い合わせに応じて、個別に開示する。</p> <p>計算方法</p> <p>学期 GPA=(各科目の修得単位数×GP)当該学期の合計／当該学期の履修登録科目の単位数の合計</p> <p>累積 GPA=(各科目の修得単位数×GP)の合計／履修登録科目の単位数の合計</p>	<p>累積 GPA=(各科目の修得単位数×GP)の合計／履修登録科目の単位数の合計</p>
---	---

別紙 1

名称	面積(m ²)	主な設備
田	2,105	
畑	2,476	
桑畑	1,000	
グリーンハウス等用地	4,004	グリーンハウス (間口 9 m×奥行き 21 m×6 棟) 資材倉庫 環境監視・制御用 PC、暖房機、水耕栽培用設備、温・湿度センサー、ミスト・CO2 発生装置 等
合計	9,585	

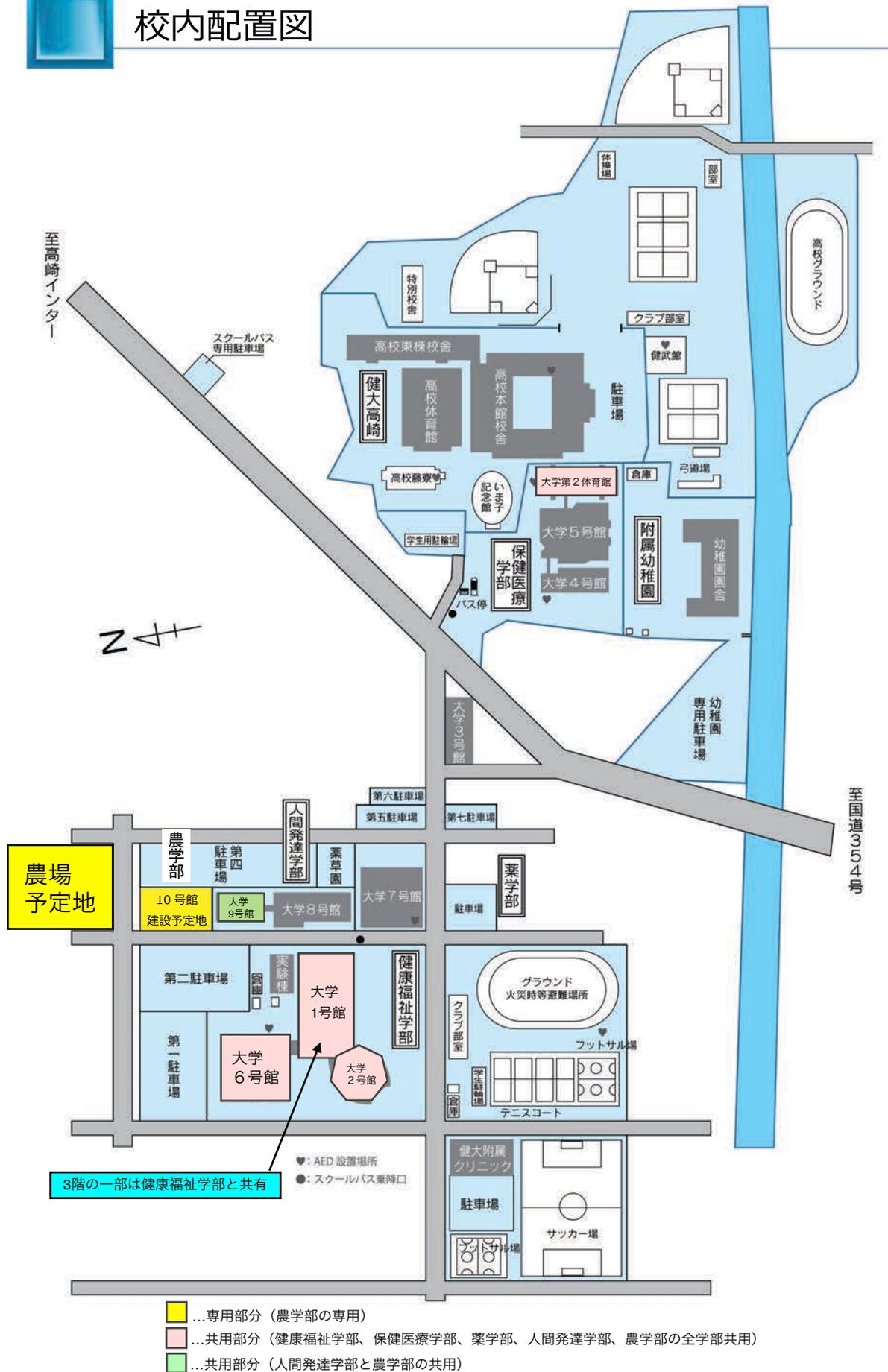
高崎健康福祉大学 校内配置図



3階の一部は健康福祉学部と共有

- ...専用部分（農学部の専用）
- ...共用部分（健康福祉学部、保健医療学部、薬学部、人間発達学部、農学部の全学部共用）
- ...共用部分（人間発達学部と農学部の共用）

高崎健康福祉大学 校内配置図



審査意見 3 への対応として「調理学実習」の科目が調理を行うべきふさわしい場所として、6 号館の調理実習室の場所を校舎配置図の p.36 で位置関係を示した。

(新旧対照表)「設置の趣旨を記載した書類」

45 ページ

49 ページ

旧			新		
中期	3	○から2科目 ○数学(数学 I、数学 IA) ○英語または国語 ○理科(物理、化学、生物、 地学から 1 科目または物理 基礎、化学基礎、生物基 礎、地学基礎から2科目)	中期	3	○から2科目 ○数学(数学 I、数学 IA、 <u>数学 II、数学 II B)</u> ○英語または国語 ○理科(物理、化学、生物、地学 から1科目または物理基礎、化 学基礎、生物基礎、地学基礎か ら 2 科目)
後期	若 干 名		後期	若 干 名	
			<p><u>本試験では、大学入試センター試験の成績 200 点×2科目+調査書の評定値 100 点で計算し、500 点で評価する。大学入試センター試験は、高得点2科目を自動的に採用する。調査書については、高得点科目として採用されなかった2教科の評定平均値を、それぞれ 50 点満点(5段階評価×10)に換算する。例えば数学 I と英語が高得点科目であった場合、国語と理科の評定平均値を採用する。</u></p>		